

7 都市空間

～魅力と活力のある都市の形成～

基本目標 21 公共交通を中心とした集約型のまちにします

基本目標 22 札幌の顔となる魅力と活力あふれる都心にします

基本目標 23 都市の価値を高めるみどりを生かしたまちにします

基本目標 24 都市基盤が適切に維持・保全されるまちにします

基本目標 21

公共交通を中心とした集約型のまちにします

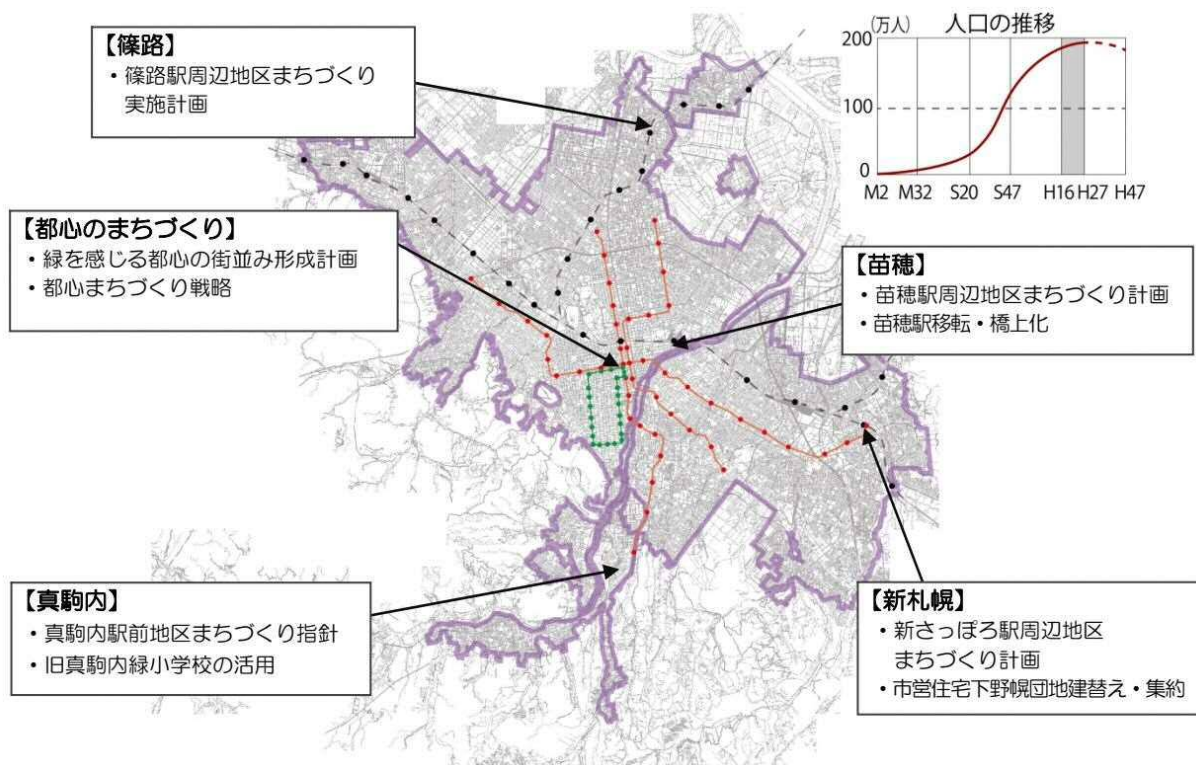
将来のまちの姿-1

都心や地下鉄駅の周辺などに、多様な都市機能が集積され、様々な交流やにぎわいが生まれています。

データからわかる現在のすがた

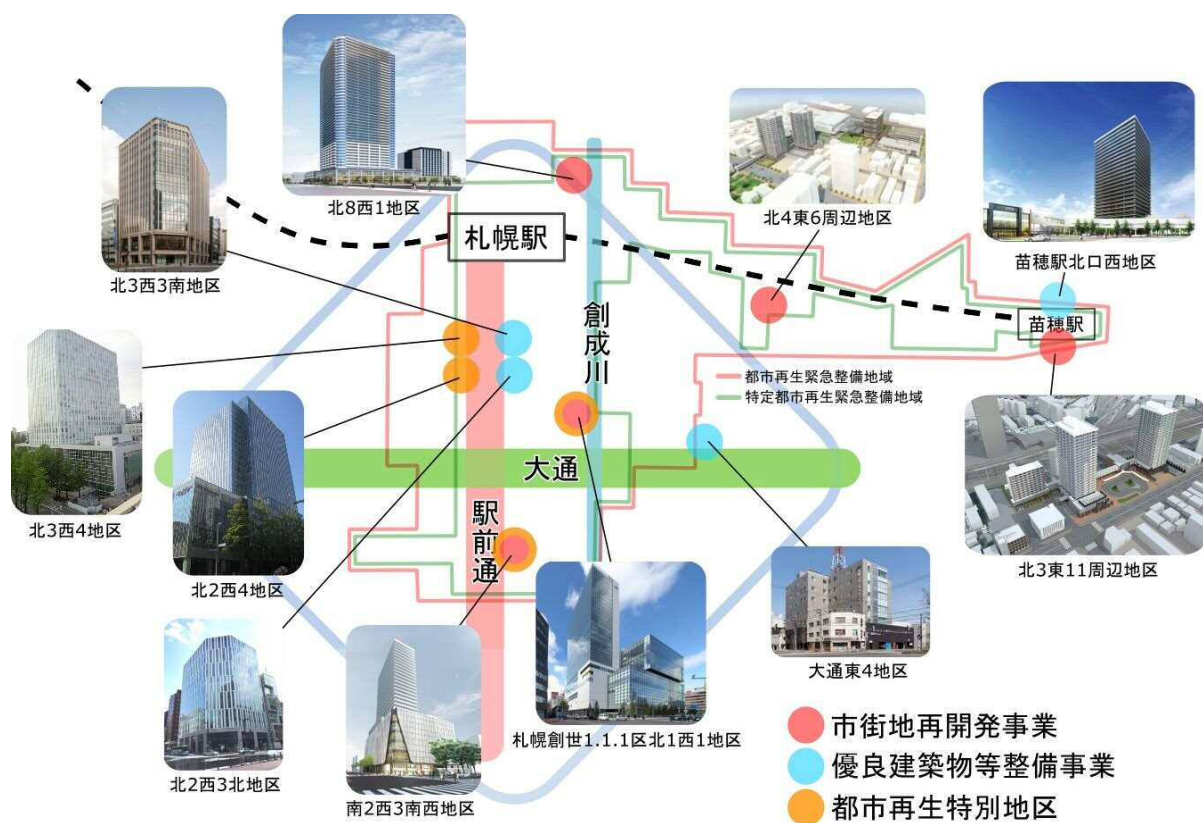
- ①都心や地域交流拠点等の機能向上を図るため、良好な民間開発への支援を行うなど、各拠点の特性に応じて官民連携による協働でまちづくりを推進しており、実容積率は上昇しています。
- ②都心では、建て替え等によるまちのリニューアルが進んでいます。また、札幌駅前通の歩行者交通量は増加しており、チ・カ・ホ開通前の平成 22 年度(2010 年度)は 3.7 万人(平日)でしたが、チ・カ・ホ開通後の令和元年度(2019 年度)は 9 万人(平日)となっています。
- ③地域交流拠点等では、地下鉄新さっぽろ駅周辺、JR 苗穂駅周辺などにおいて再開発事業が実施されています。

①③まちづくりの計画・動き



<資料>札幌市

①②都心部で実施されている再開発事業等



<資料> 札幌市

①都心、地域交流拠点における実容積率

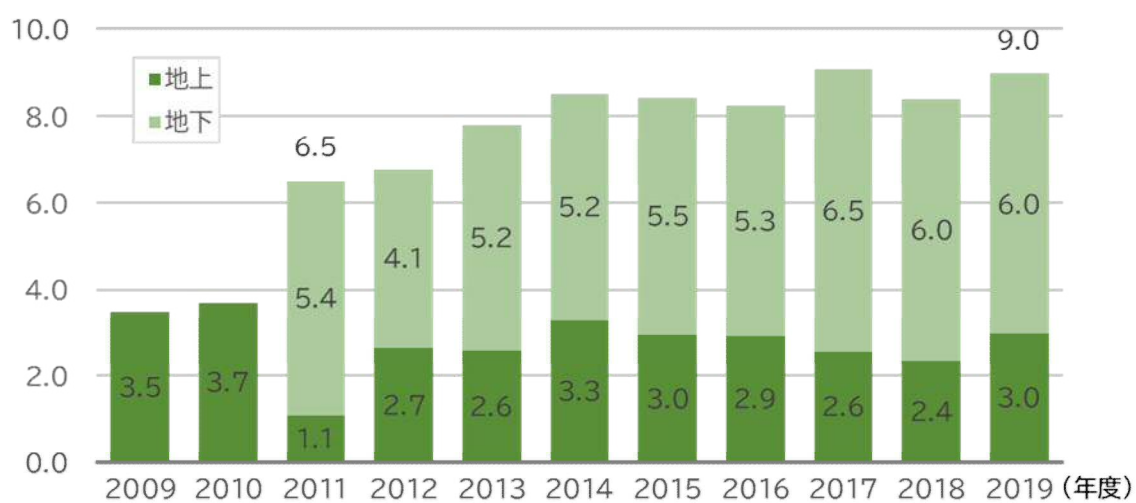
実容積率	(%)	2011 年度	2018 年度
都心		219	231
地域交流拠点		93	99

<資料> 札幌市

②札幌駅前通の歩行者交通量

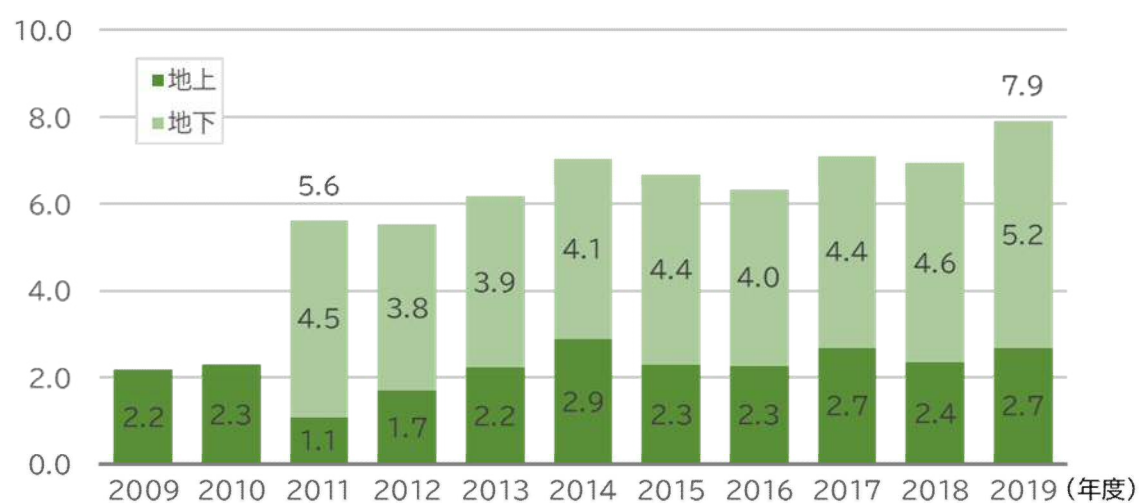
(平日)

(万人)



(休日)

(万人)



<資料>札幌市
(札幌市都心商店街通行量調査結果を参照)

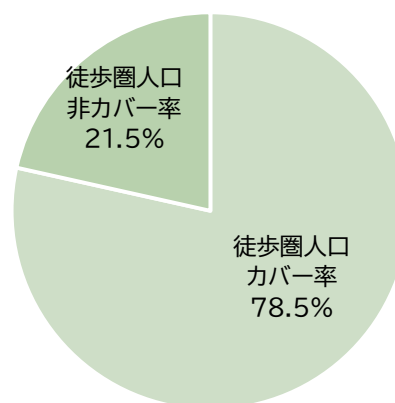
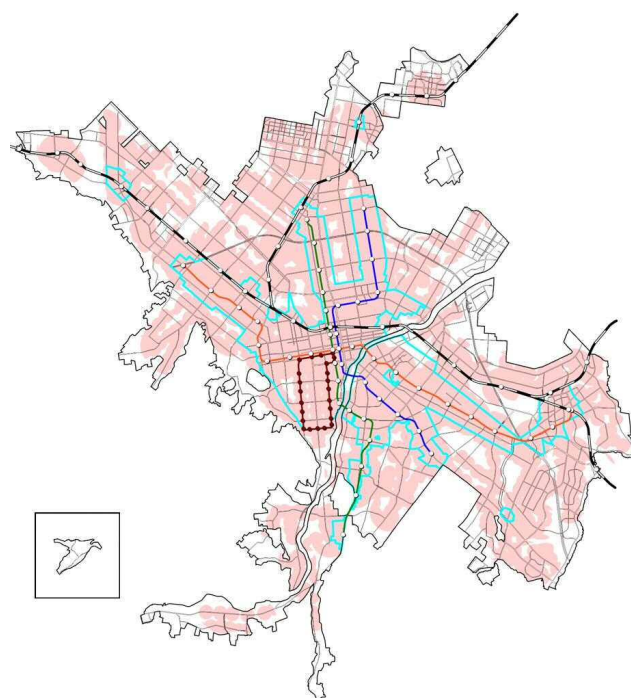
将来のまちの姿-2

都心の周辺部や地下鉄の沿線では、生活関連サービスの充実などにより、利便性の高い暮らしの場が形成されています。一方、郊外の住宅地では、ゆとりある良好な環境を生かした暮らしをしています。

データからわかる現在のすがた

- ①都心の周辺部や地下鉄沿線を中心に、徒歩圏内に医療、福祉、商業施設等の日常生活サービスに係る施設が立地しており、徒歩圏人口カバー率は 78.5%となっています。
- ②地域交流拠点等では、拠点としての機能向上を図るため、「地域交流拠点等における緩和型土地利用計画制度等の運用方針」を策定するなど、建物の建て替え更新を促進しており、地域交流拠点の区域内の実容積率は上昇しています。また、市民アンケートでは、利便性の高い環境で暮らしたい人が多くなっています。
- ③一般住宅地等では、住環境の維持・保全を図るため、用途地域の見直し等を行いました。市民アンケートでは、現在、住んでいる環境に満足している方が多くなっています。

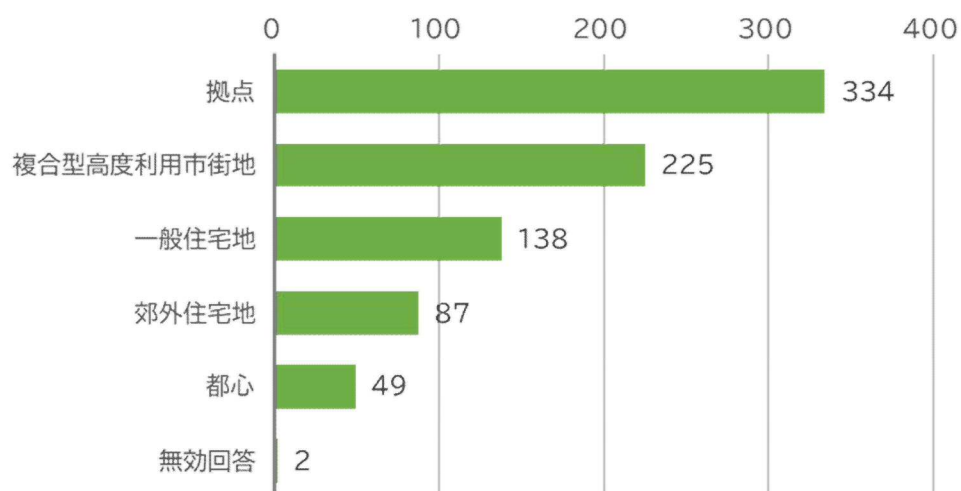
①日常生活サービスの徒歩圏人口カバー率



<資料>札幌市

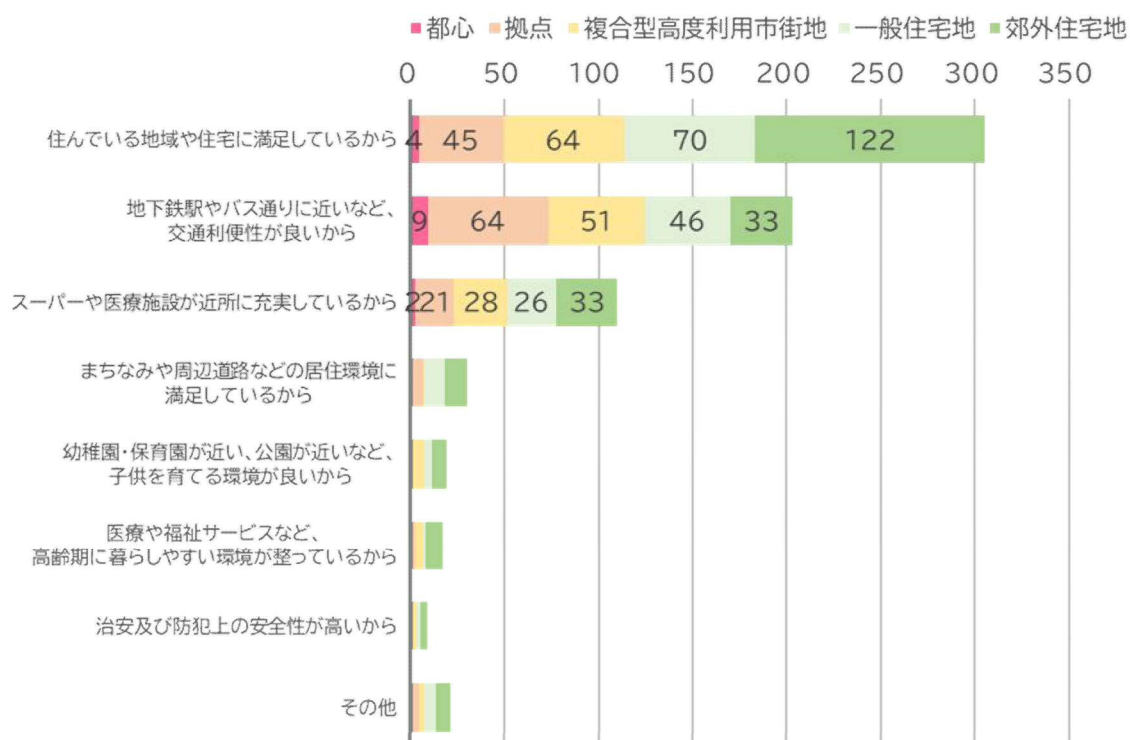
※日常生活サービス徒歩圏カバー率：医療、福祉、商業施設及び基幹的公共交通路線の全てを徒歩圏で享受できる人口割合。

②住みたいと思う地域



<資料>札幌市

③現在住んでいる地域に、ずっと住みたい最大の理由



<資料>札幌市

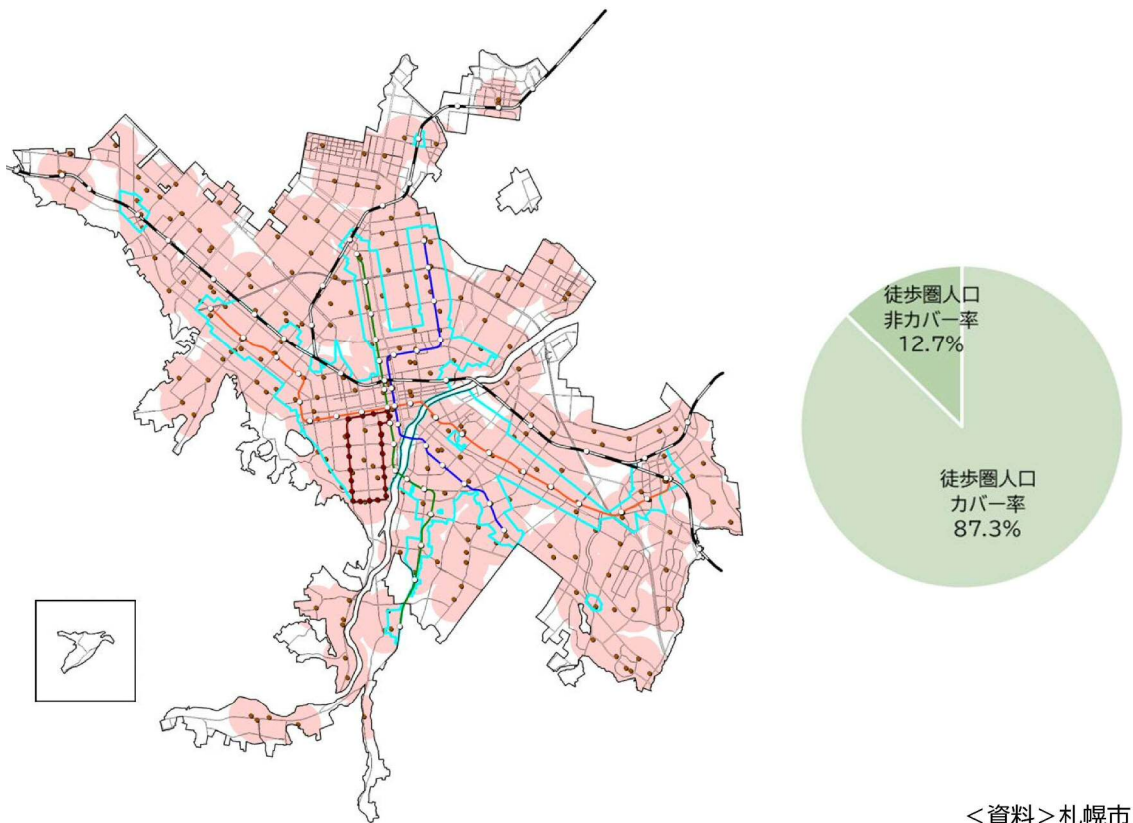
将来のまちの姿-3

日用品の買い物など、日常生活に必要なことは身近な場所で行えるとともに、市内の各地域をつなぐ公共交通網により、多様な都市機能が利用できることで、自動車を運転しなくても困らない暮らしをしています。

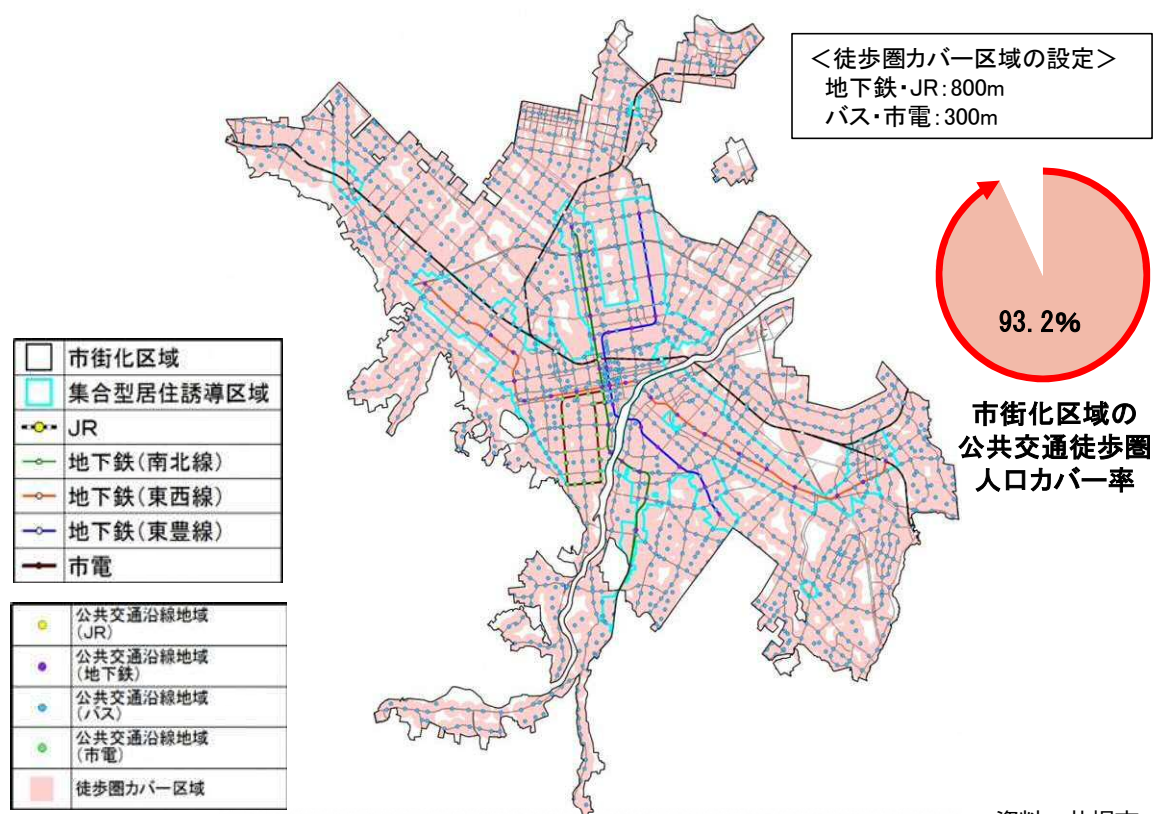
データからわかる現在のすがた

- ①市街化区域のほぼ全域において、徒歩圏内に商業施設があり、日用品の買い物などは身近な場所で行うことができ、徒歩圏人口のカバー率は 87.3%となっています。
- ②市街化区域のほぼ全域において、地下鉄・JR 駅や路線バスなどの公共交通による移動が可能となっており、公共交通徒歩圏人口カバー率は 93.2%となっています。
- ③公共交通の満足度に関する調査では、「満足している」「やや満足している」はやや減少しており、平成 24 年度(2012 年度)は 74.7%でしたが、平成 30 年度(2018 年度)は 65.4%となっています。一方、「あまり満足していない」「満足していない」も減少傾向にあり、平成 24 年度(2012 年度)は 20.7%でしたが、平成 30 年度(2018 年度)は 15.9%となっています。

①日用品の買い物の徒歩圏人口カバー率

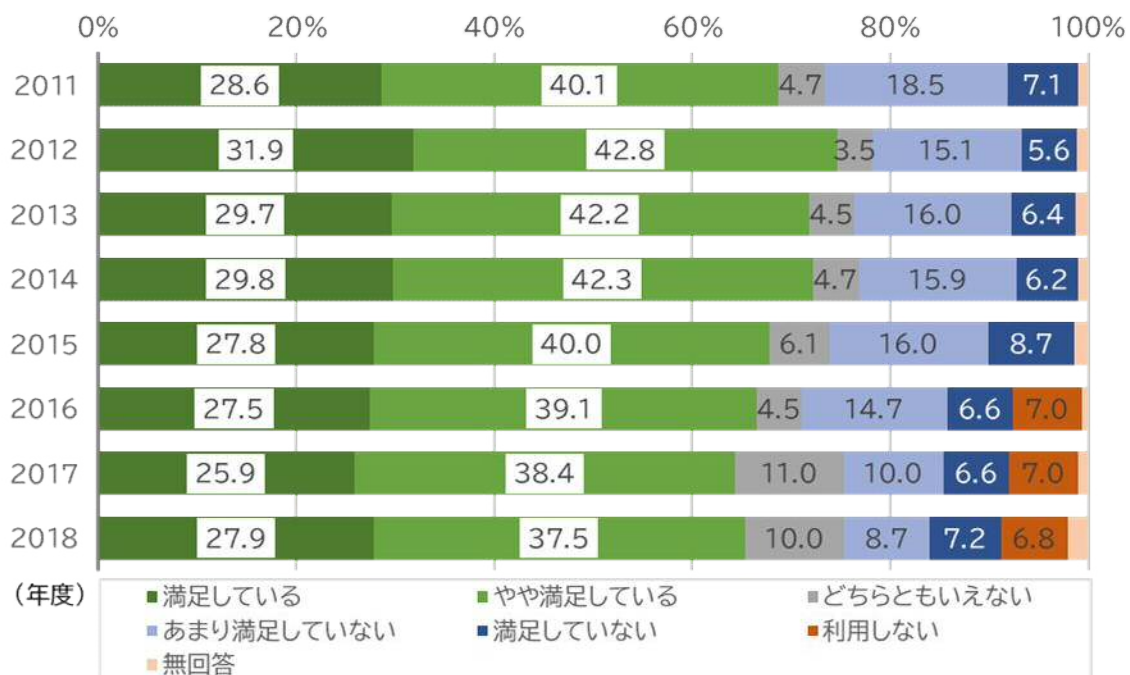


②市街化区域の公共交通徒歩圏人口カバー率



＜資料＞札幌市

③公共交通に対する満足度割合の推移



＜資料＞札幌市

将来のまちの姿-4

市民や企業は公共交通をみんなで支える意識を持ち、更に利用者の利便性が向上することで、積極的に公共交通を利用しています。これにより、過度な自動車の利用が控えられ、移動にかかるエネルギー消費を抑えた社会となっています。

データからわかる現在のすがた

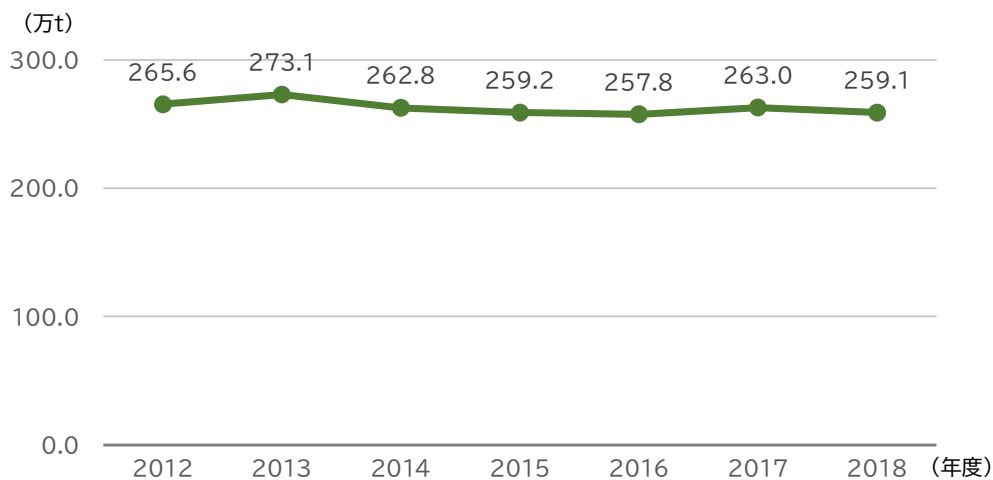
- ①公共交通利用者数は増加傾向にあり、平成 22 年度(2010 年度)は 1,228 千人でしたが、平成 30 年度(2018 年度)は 1,303 千人となっています。
- ② 運輸部門における CO₂ 排出量は大きく減少しておらず、平成 24 年度(2012 年度)は約 266 万 t-CO₂でしたが、平成 30 年度(2018 年度)は約 259 万 t-CO₂となっています。

①公共交通利用者数の推移

	2010 年度	2018 年度
JR	197 千人	223 千人
地下鉄	561 千人	631 千人
バス	289 千人	288 千人
路面電車	20 千人	24 千人
タクシー	161 千人	137 千人
公共交通全体	1,228 千人	1,303 千人

<資料>札幌市

②運輸部門の CO₂ 排出量



<資料>札幌市

将来のまちの姿-5

道路ネットワークの維持・充実が図られるとともに、駅施設やその周辺などのバリアフリー化が進むことにより、安全で快適な交通環境が実現しています。

データからわかる現在のすがた

- ①地下鉄駅や JR 駅などの旅客施設のバリアフリー化を進めており、平成 25 年度（2013 年度）から令和元年度（2019 年度）までに6つの駅にエレベーターを設置しています。
- ②地下鉄・JR 駅や地域交流拠点の周辺などでは、重点的に歩道のバリアフリー化を進めており、歩道のバリアフリー化済み延長としては、平成 22 年度（2010 年度）時点では 106km でしたが、令和元年度（2019 年度）には 211km となっています。

①エレベーター設置駅数（地下鉄＋JR）

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	合計
駅数	0	1	1	1	0	1	2	6

<資料> 札幌市

②歩道のバリアフリー整備状況

(km)	2010 年度	2016 年度	2019 年度
歩道のバリアフリー整備状況	106	181	211

<資料> 札幌市

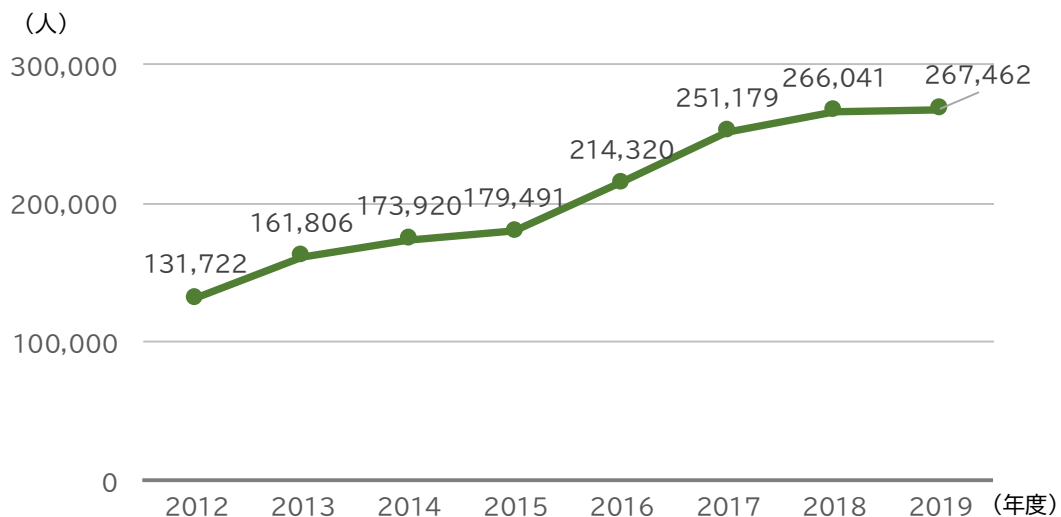
将来のまちの姿-6

高速道路と都心のアクセス性の向上や、北海道新幹線など広域的な交通ネットワークの整備が進められ、観光や物流の面で北海道経済の活性化にも貢献しています。

データからわかる現在のすがた

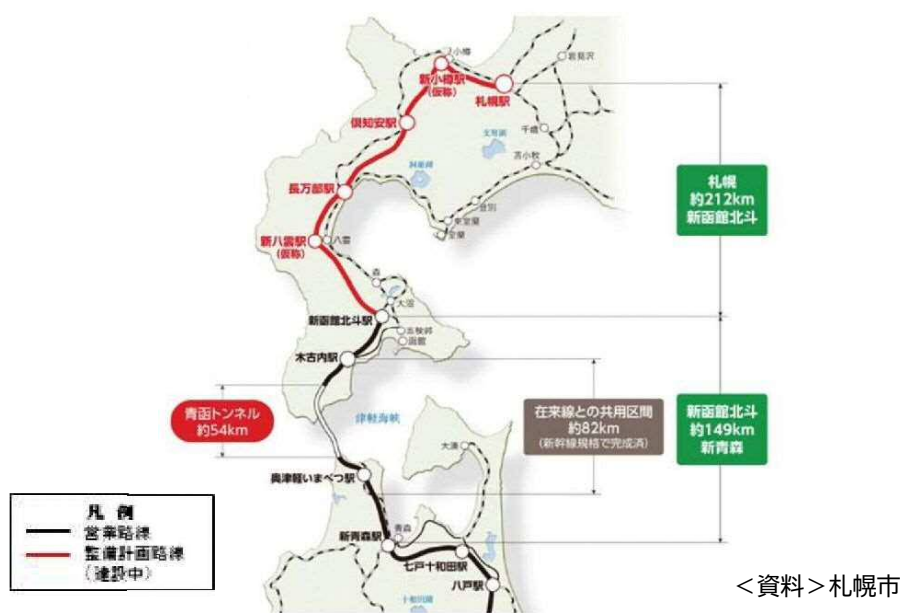
- ①近年、新たに静岡線や松本線を開設するなど、丘珠空港の利用者数は増加しており、令和元年度(2019 年度)では 267,462 人となっています。
- ②2030 年度末の北海道新幹線札幌開業に向け、新函館北斗駅から札幌駅までの約 212km について平成 24 年(2012 年)に工事实施計画の認可受け、平成 30 年度(2018 年度)より準備工事等に着手しています。
- ③札幌市は人口 100 万人以上の政令指定都市の中で、都心から高速道路までの距離が最も遠く、特に冬期は速達性・定時性が確保されていない状況です。都心と高速道路のアクセス性を向上させるため、創成川通の機能強化に向けた検討を国などの関係機関と連携して進めており、令和元年度(2019 年度)には国が行う一般国道 5 号創成川通の計画段階評価において、都心アクセス道路の整備方針が地下整備案に決定し、令和 2 年度に札幌市の都市計画決定に位置付けました。

①丘珠空港における利用者数の推移

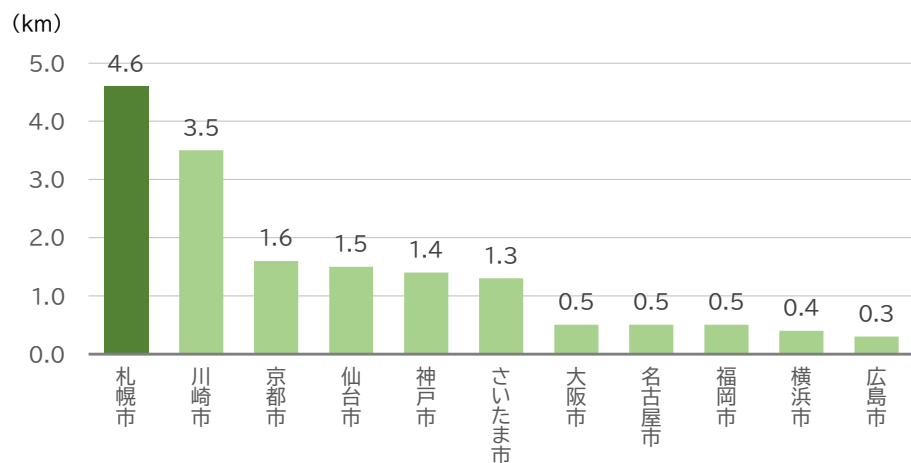


<資料>国土交通省空港管理状況調書

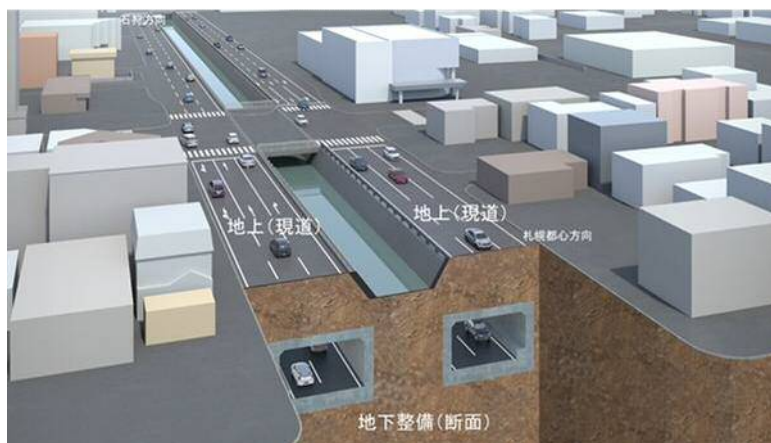
②北海道新幹線札幌延伸開業



③人口100万人以上の政令指定都市における都心駅から最寄りIC間距離の比較



③地下整備案イメージパース



基本目標 22

札幌の顔となる魅力と活力あふれる都心にします

将来のまちの姿-1

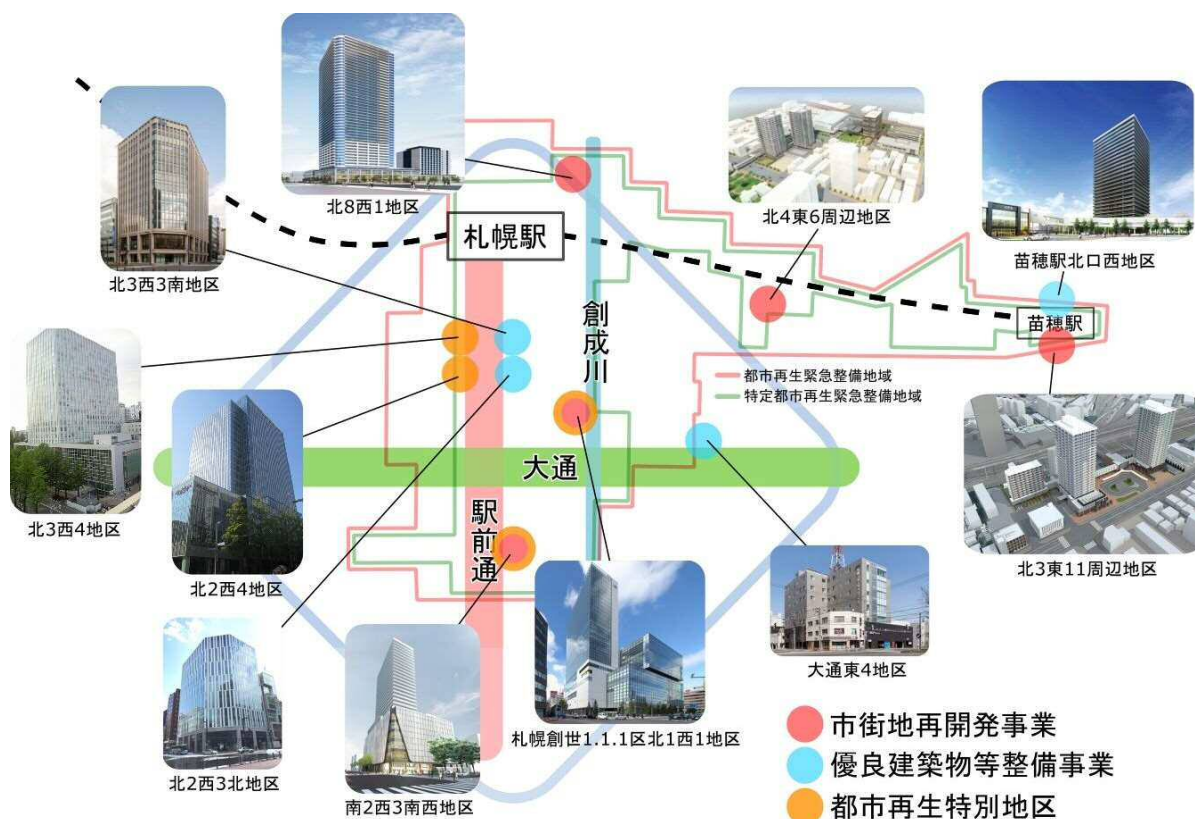
市民を始め、国内外からも多くの人を訪れる都心には、高次な都市機能が集積しているとともに、多様な活動を支える場など、人を中心とした魅力ある空間が形成されています。

データからわかる現在のすがた

- ①都心では「第2次都心まちづくり計画」を策定し、高次な都市機能の集積や魅力ある都市空間の創出を誘導しており、札幌駅前通の歩行者交通量が増加しています。
- ②都心では、更新時期を迎える建物が、今後 10 年間で一層増加する見込みとなっています。
- ③北 3 条広場(アカプラ)や札幌駅前通地下歩行空間など、官民連携により、周辺民間施設と連動したにぎわいを創出する公共的空間が整備されています。

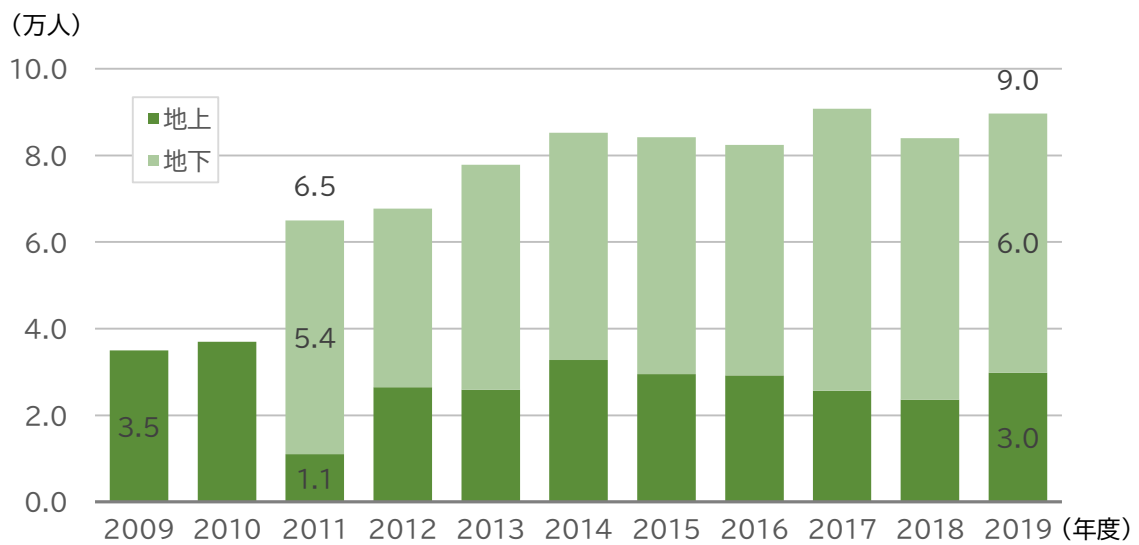
①都市機能の集積や魅力ある都市空間の創出

(都心部で実施されている再開発事業等)

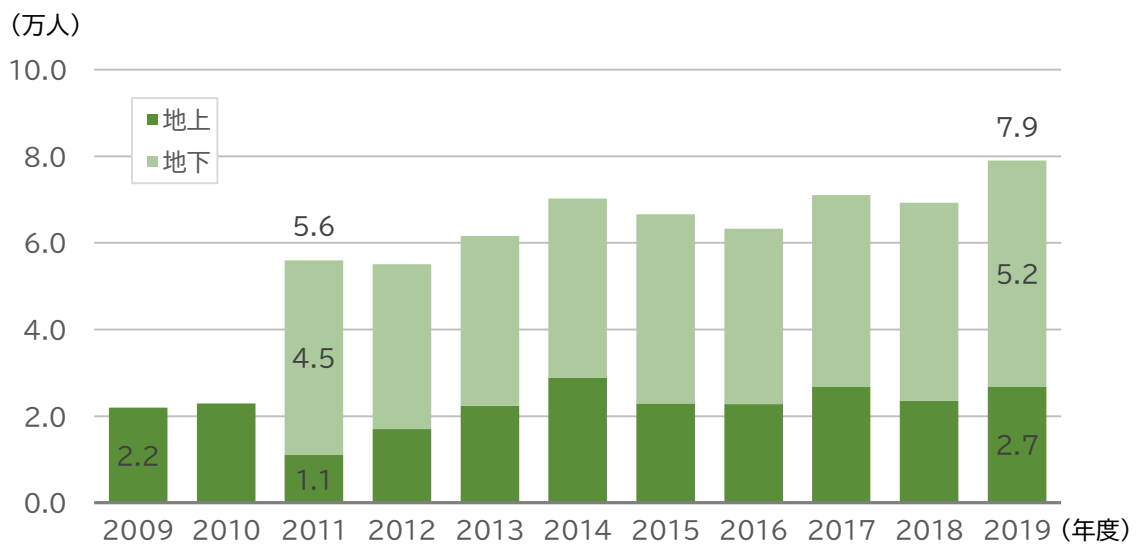


<資料>札幌市

(札幌駅前通の歩行者交通量・平日)

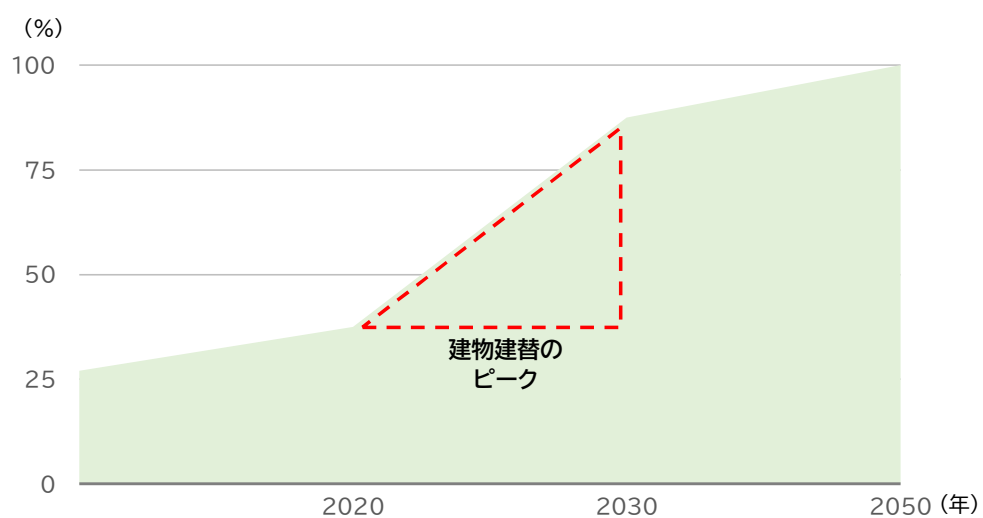


(札幌駅前通の歩行者交通量・休日)



<資料>札幌市
(札幌市都心商店街通行料調査結果を参照)

②都心の建物の建替時期の予測イメージ



<資料>札幌市

※国税庁の耐用年数表に基づき、耐用年数を迎えた建物から建替を想定し、建替面積の累積イメージを表示

③北 3 条広場



将来のまちの姿-2

創造的な活動の発信や担い手の育成など、文化と活力を創造する取組が展開されています。

データからわかる現在のすがた

- ①北 3 条広場(アカプラ)や札幌駅前通地下歩行空間の広場においては、文化的なイベントなど賑わいを創出する様々な活動が展開されています。
- ②都心の新たな文化芸術の拠点として、平成 30 年(2018 年)10 月に札幌市民交流プラザが開館しました。初年度の文化芸術劇場ホール及び交流センター利用率は 90%超、来館者数実績は約 113 万人といずれも高くなっています。

①地下歩行空間(チ・カ・ホ)の各広場の稼働率

場所			2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
北3条広場	西	平日	67.7%	83.1%	96.4%	95.0%	95.9%	95.5%	95.6%
		休日	84.7%	90.6%	98.3%	98.0%	99.2%	97.5%	96.2%
	東	平日	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
		休日	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
北大通広場	西	平日	42.2%	44.8%	93.6%	94.0%	93.5%	92.7%	89.9%
		休日	44.0%	49.6%	96.6%	97.0%	94.1%	90.7%	92.5%
	東	平日	65.0%	88.7%	94.0%	94.0%	93.9%	93.5%	93.4%
		休日	73.3%	85.5%	94.0%	97.0%	96.6%	96.6%	95.8%
憩いの空間	(短期枠) 10カ所	平日	92.4%	92.8%	94.1%	94.0%	94.1%	92.8%	91.9%
		休日	96.3%	97.3%	96.3%	96.0%	96.1%	95.8%	93.5%

<資料>札幌市



地下歩行空間(チ・カ・ホ)



北 3 条広場(アカプラ)

②札幌市民交流プラザの利用実績



	2018 年度
札幌文化芸術劇場ホール 利用率	91.8%
札幌文化芸術劇場交流センター 利用率	90.6%
来館者数(図書・情報館含む)	1,129,107人

<資料> 札幌市

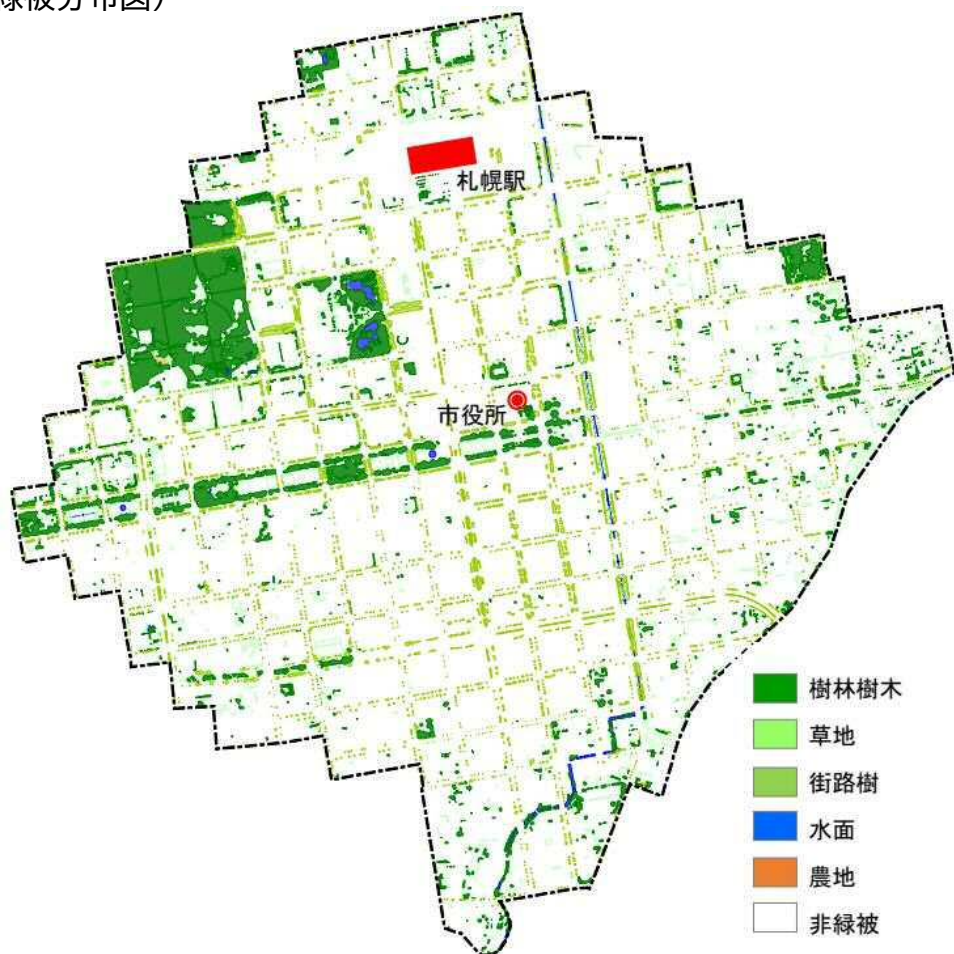
将来のまちの姿-3

豊かなみどりが充実することにより、うるおいや風格が感じられる都心にふさわしい街並みが形成されています。

データからわかる現在のすがた

- ①都心では大通公園や中島公園を始め、近年では創成川公園などを整備していますが、令和元年度(2019 年度)における都心の緑被率は 13.45%であり、市街化区域の緑被率 21.6%と比較して低い状況です。
- ②「さっぽろ都心みどりのまちづくり助成制度」を運用し、民間によるみどりの創出を支援しています。
- ③都心の施設の緑化の充実に関する市民意識では、「足りていない」「どちらか」と足りていない」が約半数を占めています。

①都心の緑被分布図、種別ごとの緑被面積及び緑被率 (都心の緑被分布図)



<資料>札幌市

(令和元年度(2019 年度)における種別ごとの緑被面積及び緑被率)

	都心部設定区域		市街化区域	
	面積(ha)	緑被(%)	面積(ha)	緑被(%)
樹林樹木	29.70	7.27	1,962	7.8
草地	11.65	2.85	2,590	10.4
農地	0.09	0.02	373	1.5
水面	1.90	0.47	196	0.8
街路樹	11.56	2.83	274	1.1
緑被地	54.89	13.45	5,395	21.6
区域面積	408.27		25,017	

<資料>札幌市

②さっぽろ都心みどりのまちづくり助成制度の助成実績

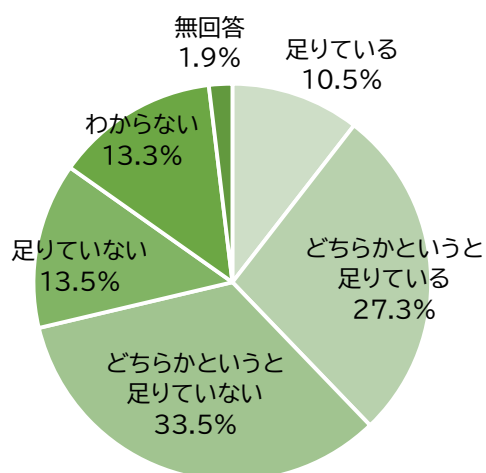
	2013～ 2018年度
さっぽろ都心みどりのまちづくり 助成制度の助成実績	12件

<資料>札幌市

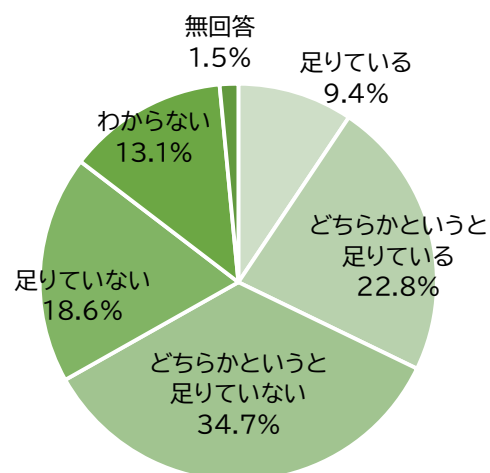


③都心の施設の緑化の充実について

(公共施設について)



(民間施設について)



<資料>札幌市

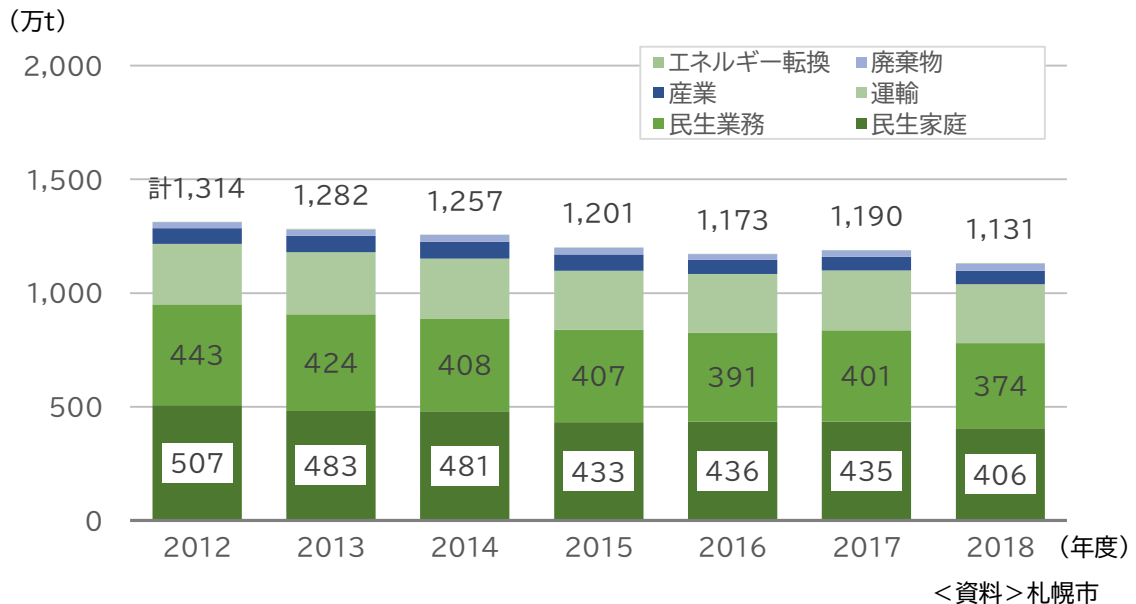
将来のまちの姿-4

エネルギーの効率的な利用などにより、先駆的な環境低負荷型のまちづくりが展開されています。

データからわかる現在のすがた

- ①札幌市における CO₂ の総排出量は減少傾向にあります。また、民生部門(業務・家庭)からの排出量が約 7 割を占めています。
- ②札幌市全体に対する都心の面積は約 0.3%にもかかわらず、CO₂ 排出量は、業務部門において、18.3%と特に高い割合を占めているため、都心でのエネルギーの効率的な利用に向け、エネルギーネットワークの整備や自立分散型エネルギー供給拠点の整備を進めています。

①部門別二酸化炭素排出量の推移



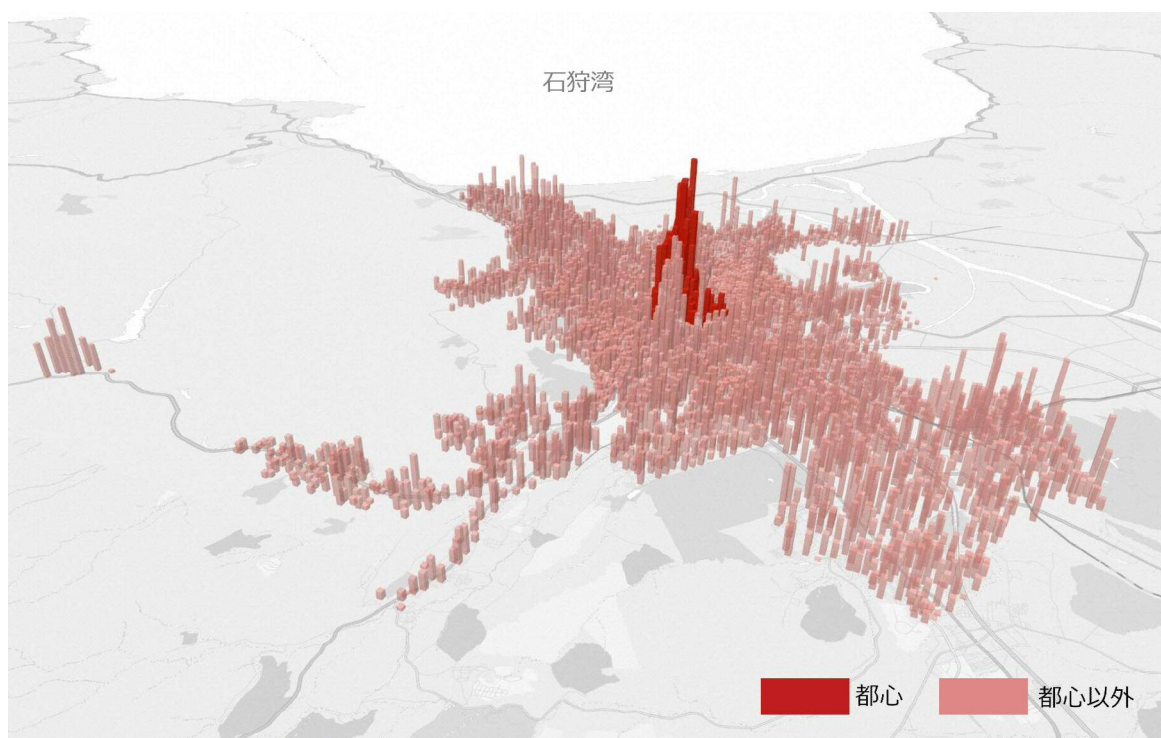
②札幌市全体に対する都心エリアの CO₂ 排出量が占める比率

・札幌市全体に対する都心エリアの CO₂ 排出量が占める比率(平成 24 年(2012 年))

	都心エリア (t-CO ₂ /年)	札幌市全体 (t-CO ₂ /年)	都心/市全体
業務部門	812,578	4,432,270	18.3%
家庭部門	66,003	5,074,547	1.3%
合計	878,581	9,506,817	9.2%

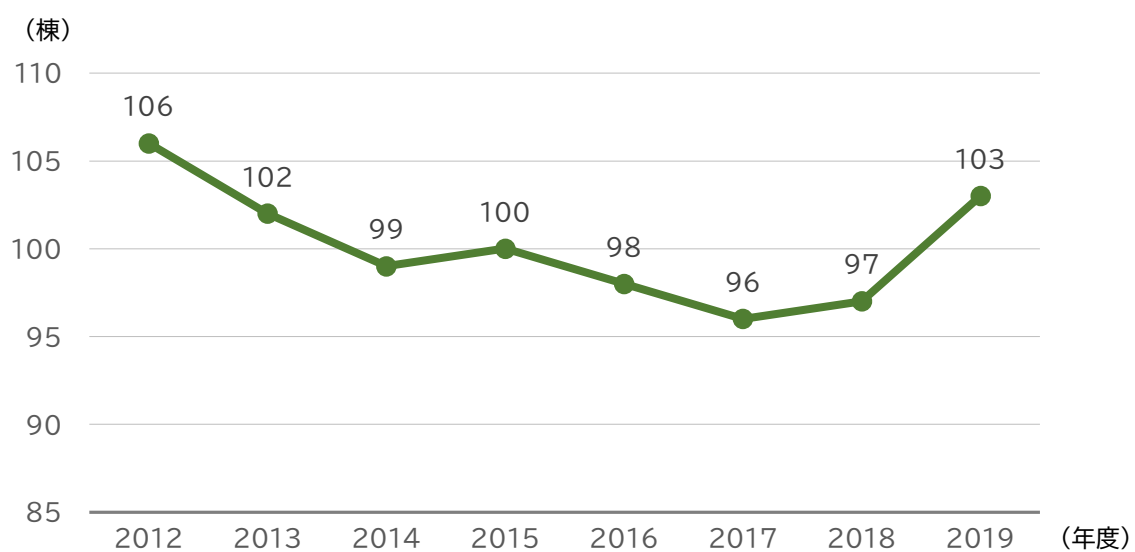
<資料>札幌市

・札幌市の CO₂ 排出量〔500m メッシュ(平成 24 年(2012 年))〕



<資料>千葉大学

・都心におけるネットワークへの接続建物数



<資料>札幌市

将来のまちの姿-5

市民や企業などが主体となった都心のまちづくりにより、それぞれの地域特性に合わせた良好な環境が形成され、地域の価値の維持・向上が図られています。

データからわかる現在のすがた

- ①都心の地区・街区ごとのエリアマネジメントの推進のため、大通地区や札幌駅前通地区、創成東地区では、まちづくり会社が設立されています。
- ②まちづくり会社が主導する、地区の将来像を共有するためのビジョンや再開発等を見据えた地区計画の策定を支援しています。

①まちづくり会社設立件数

まちづくり会社設立件数	3件
-------------	----

<資料> 札幌市

②エリアマネジメントによる プロジェクトへの支援件数

エリアマネジメントによる プロジェクトへの支援件数	2件
------------------------------	----

<資料> 札幌市

将来のまちの姿-6

都心は北海道の中心としての役割を果たしながら、国内外に札幌・北海道の魅力を発信し続けるとともに、市民生活の豊かさを享受できる場が創出されています。

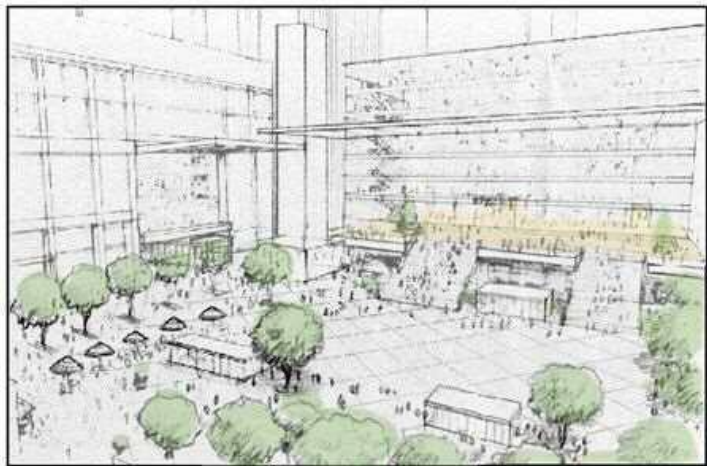
データからわかる現在のすがた

- ①北1西1地区において、新たな活動や交流を生み出す官民連携の複合施設として、さっぽろ創世スクエアが平成30年(2018年)に誕生しました。
- ②札幌駅交流拠点北5西1・西2地区再開発基本構想を令和元年(2019年)10月に策定し、2029年秋全体竣工・供用開始を目指しています。また、現在、中島公園駅周辺地区において、まちづくり基本構想策定に向けた検討及び新MICE施設整備を推進しています。

①さっぽろ創世スクエア



②札幌駅交流拠点北5西1・西2地区再開発 (目標年:2029年)



<資料>札幌市

基本目標 23

都市の価値を高めるみどりを生かしたまちにします

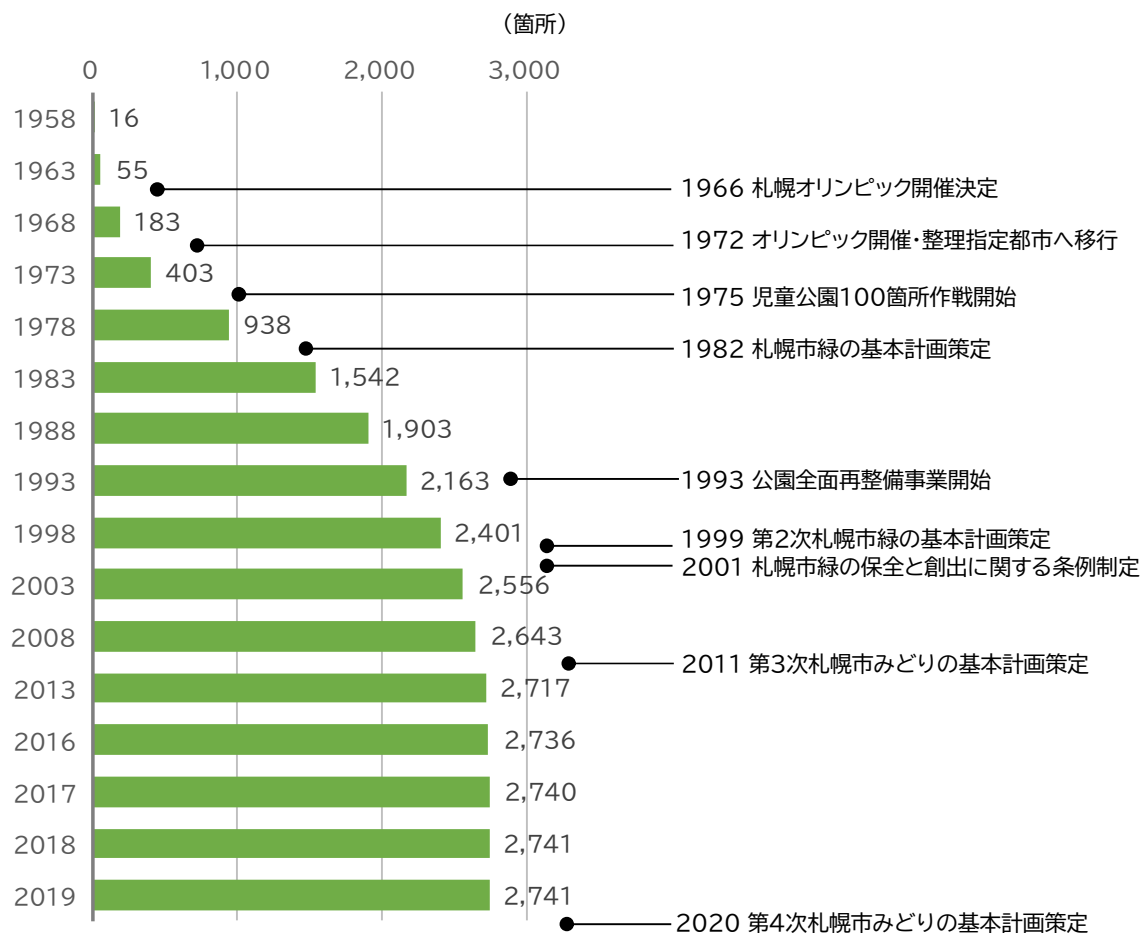
将来のまちの姿-1

市街地では、うるおいと安らぎを与えるみどりと、憩いや交流の場として活用されるオープンスペースが十分にあり、それらを生かした、市民に親しまれる良好な都市景観が形成されています。

データからわかる現在のすがた

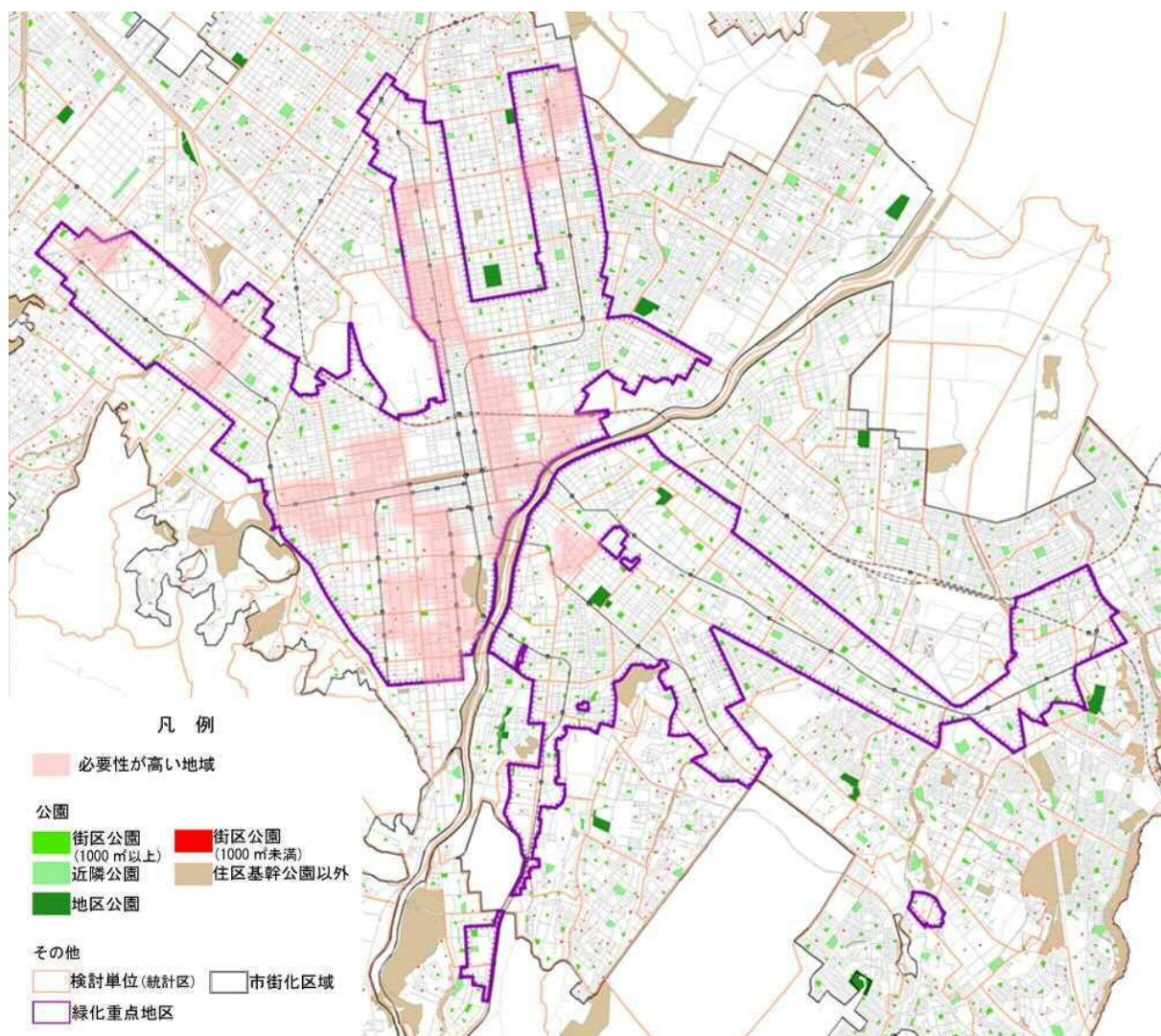
- ①札幌市における公園数は2,700か所を超え、政令指定都市の中で最も多い数となっています。
- ②しかし、その配置は地域的な偏りがあり、特に都心部等では少ない状況です。
- ③公園や緑地に関する市民意識によると、「公園の再整備と機能の見直し」等が求められています。

①札幌市の都市公園数の推移



<資料> 札幌市

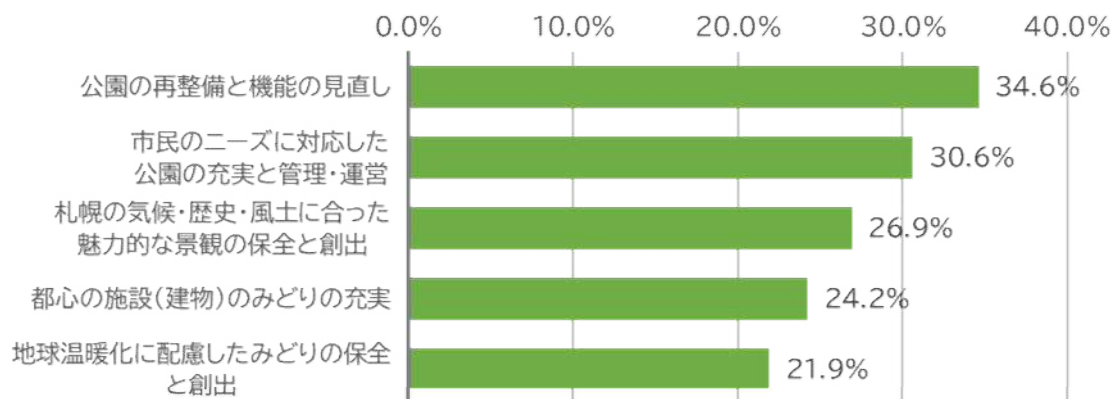
②公園の必要性が高い地域



※今後の人口動態やまちづくりの方向性を踏まえて、地域は随時見直しを図っていきます。

<資料>札幌市

③みどりの現状で不足していること



<資料>札幌市

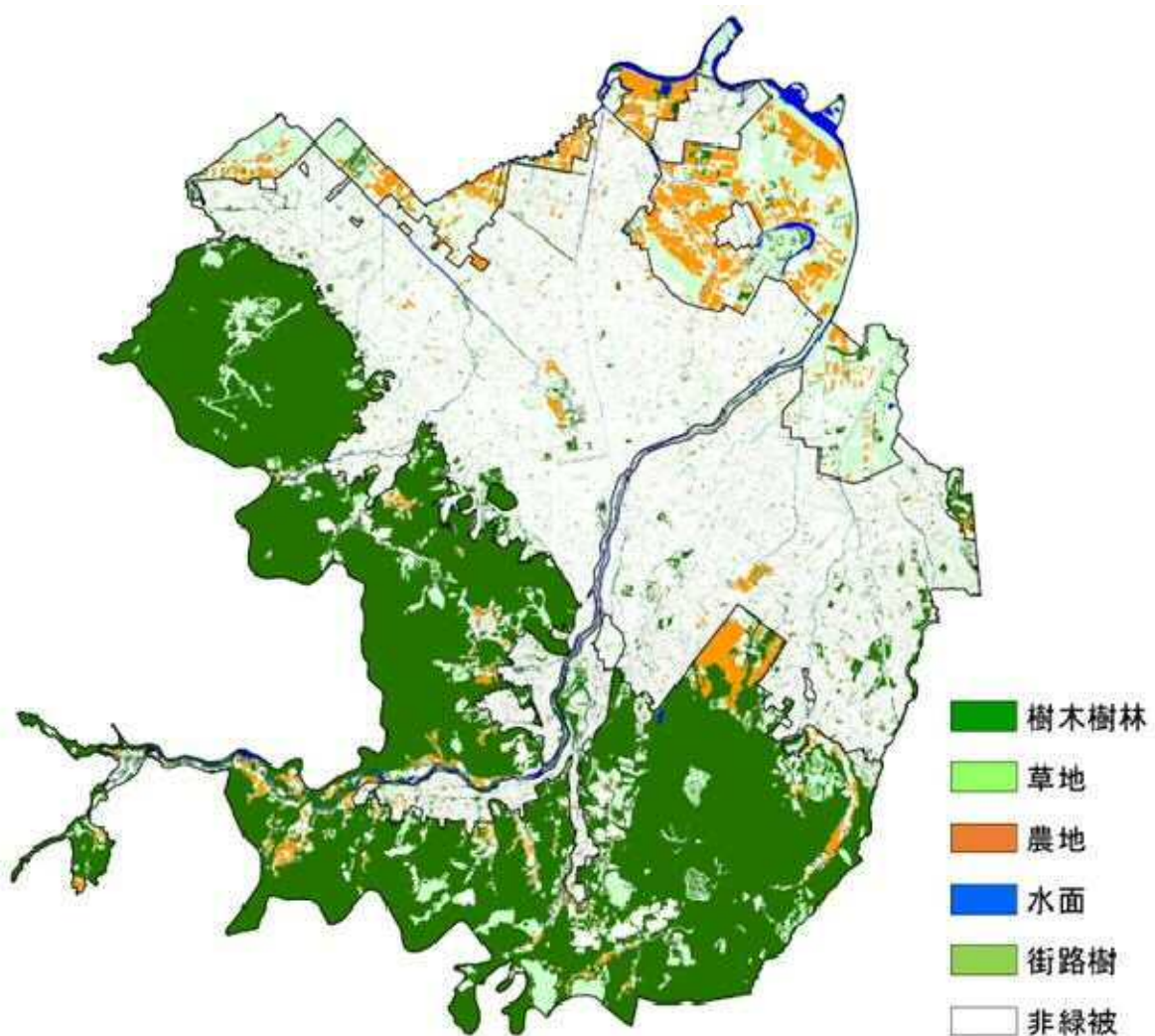
将来のまちの姿-2

市街化調整区域では、森林や農地などの保全が図られているとともに、その特質を生かした土地利用が行われています。

データからわかる現在のすがた

- ①令和元年度(2019 年度)における市街化調整区域の緑被率は 86.8%と非常に高くなっております。
- ②農地面積は減少傾向にあり、農地が草地などに置き換わっていると推測されます。

①区域ごとの緑被面積および緑被率 (都市計画区域全体の緑被分布図)



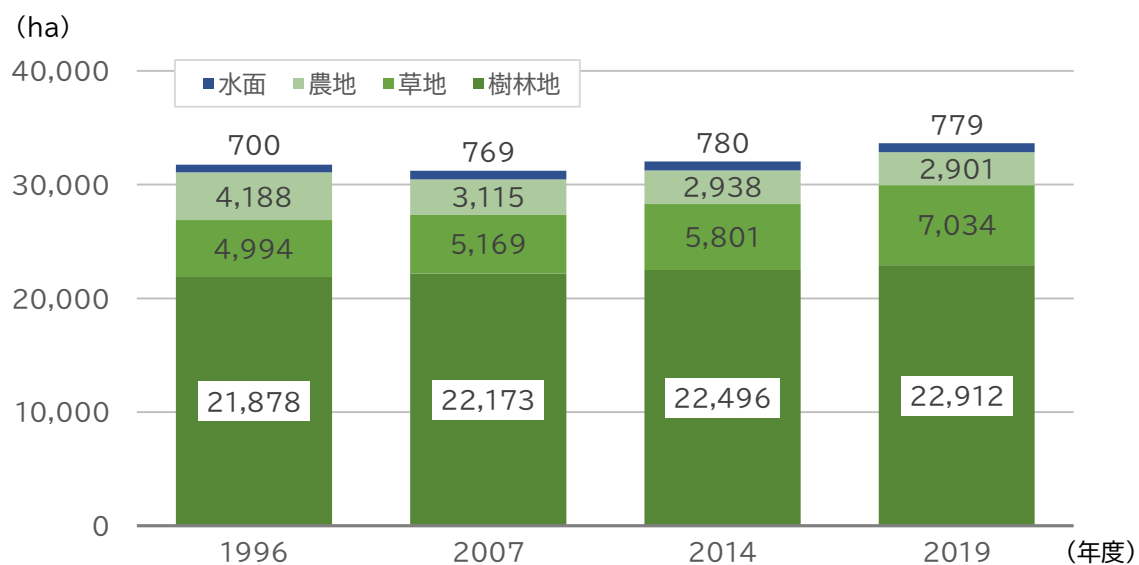
<資料>札幌市

(令和元年度(2019 年度)区域ごとの緑被面積および緑被率)

	都市計画区域全体		市街化区域		市街化調整区域	
	面積(ha)	緑被(%)	面積(ha)	緑被(%)	面積(ha)	緑被(%)
樹林樹木	22,623	39.3	1,962	7.8	20,662	63.5
草地	7,034	12.2	2,590	10.4	4,444	13.7
農地	2,901	5.0	373	1.5	2,528	7.8
水面	779	1.4	196	0.8	583	1.8
街路樹	289	0.5	274	1.1	15	0.0
緑被地	33,627	58.4	5,395	21.6	28,232	86.8
区域面積	57,541		25,017		32,524	

<資料>札幌市

②都市計画区域の緑被面積の経年推移



<資料>札幌市

基本目標 24

都市基盤が適切に維持・保全されるまちにします

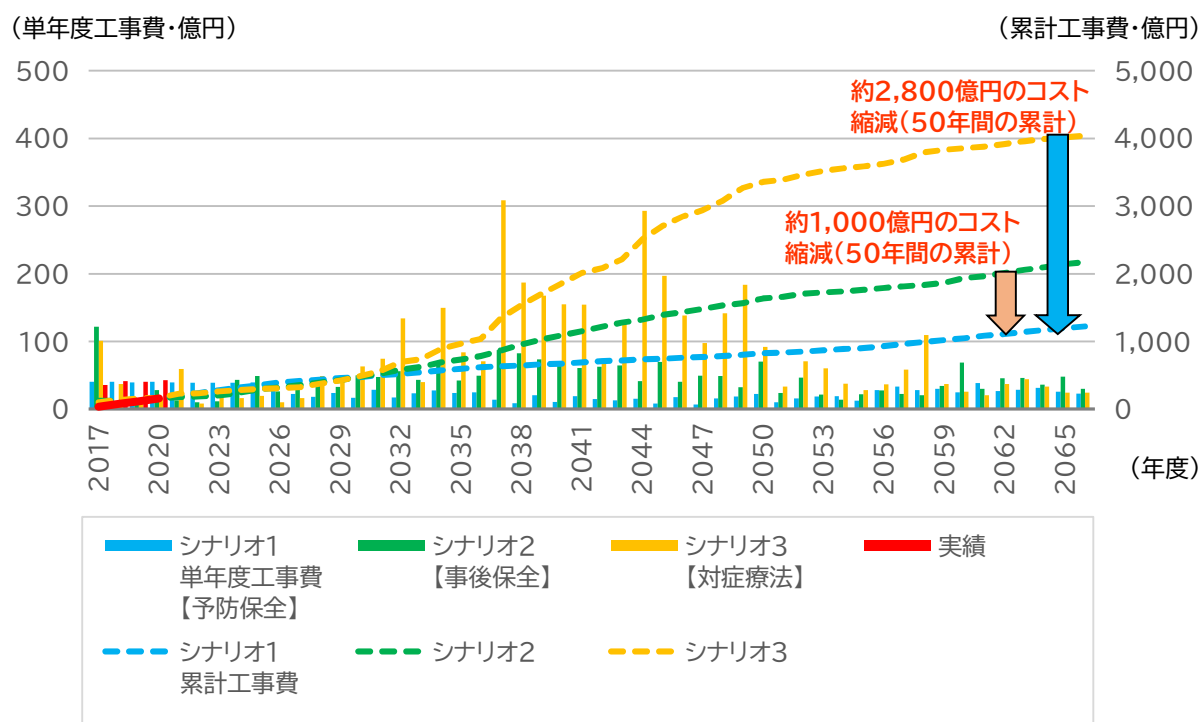
将来のまちの姿-1

市民の生活や都市活動を支え続けるために、老朽化が進んでいく上下水道などの都市基盤施設や市有建築物のライフサイクルコストの縮減につながる計画的かつ効率的な維持・保全が進められています。

データからわかる現在のすがた

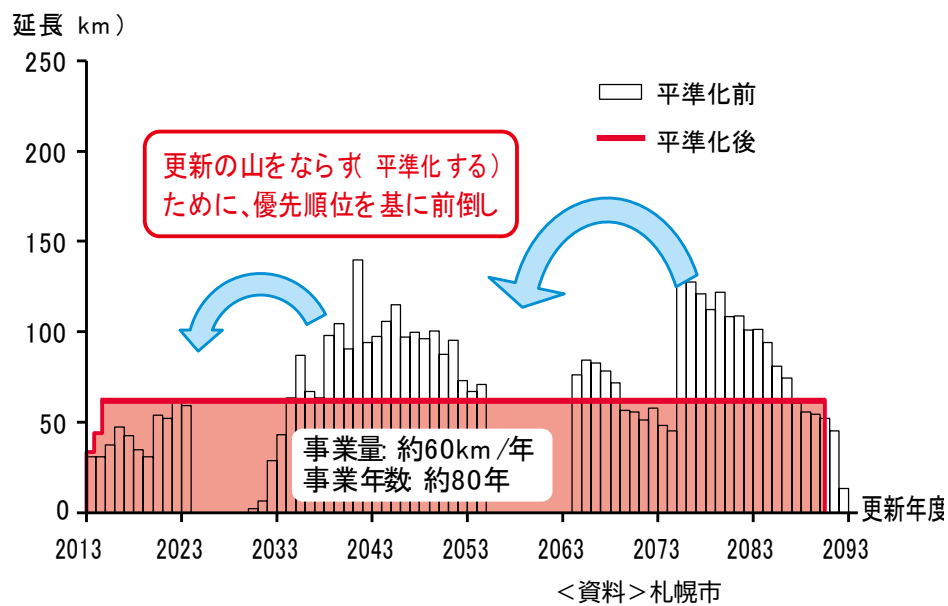
①道路、橋梁、上下水道等などの都市基盤施設や市有建築物は、各種計画に基づき、ライフサイクルコストの縮減につながる効率的な維持・更新等を進めています。

①インフラや市有建築物の効率的な維持と計画的な更新 (橋梁の長寿命化修繕計画によるコスト縮減効果の試算)

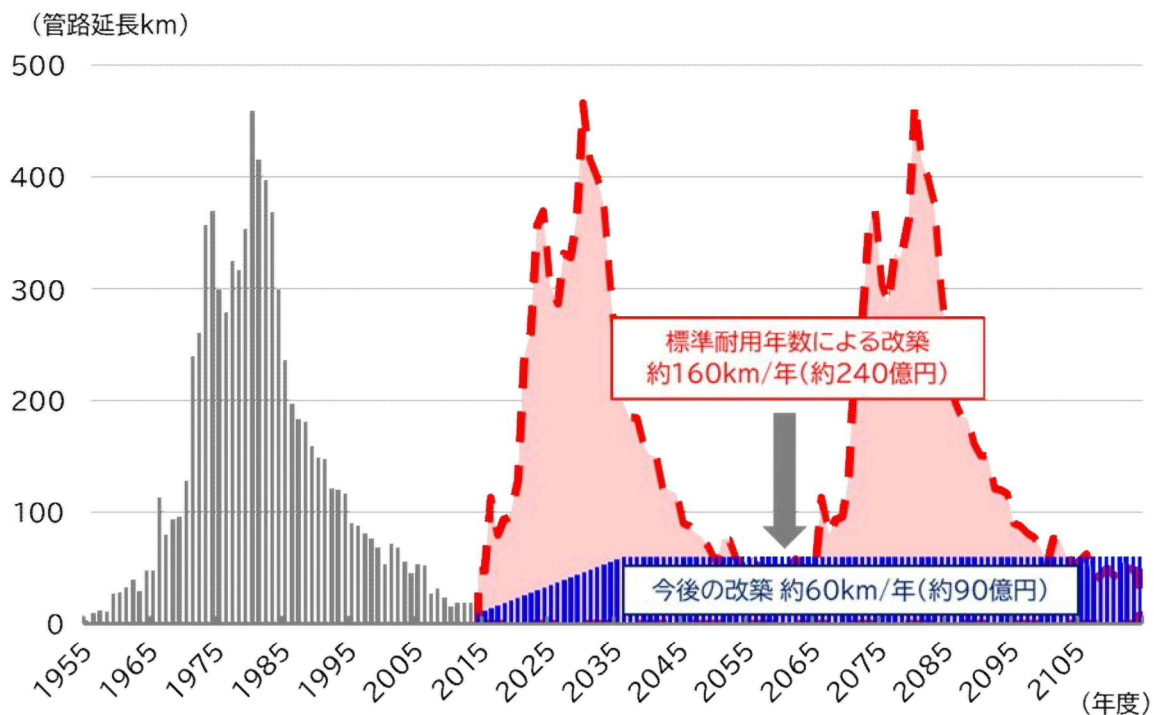


<資料>札幌市

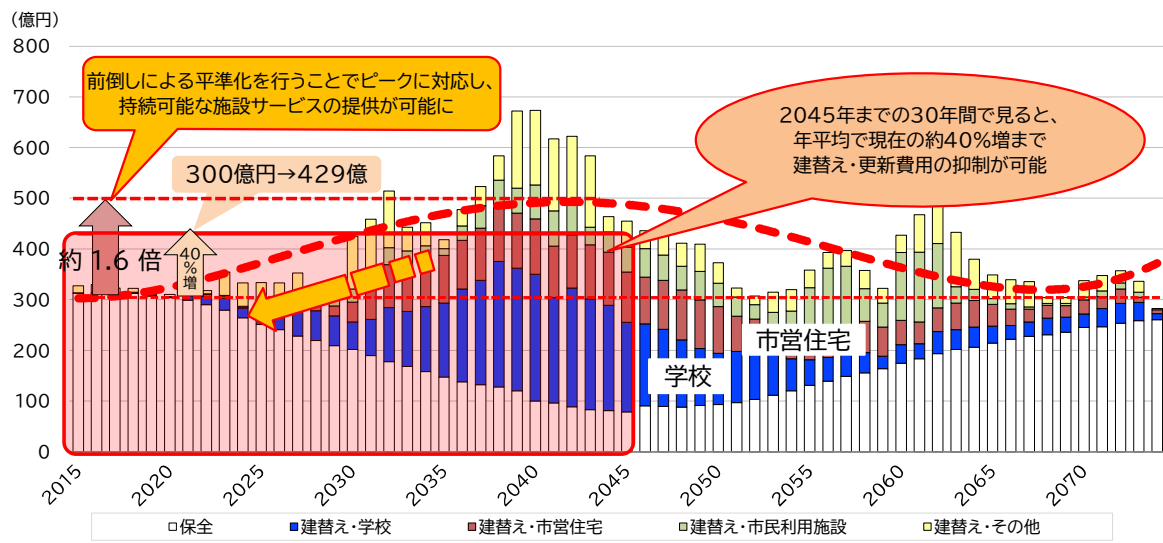
(配水管更新計画の事業量の平準化のイメージ)



(下水道本管の延命化によるコスト縮減と改築事業量の平準化のイメージ)



(市有建築物の再構築後のイメージ)



<資料> 札幌市

将来のまちの姿-2

市有建築物については、機能の複合化など、効果的かつ効率的な再配置が進められています

データからわかる現在のすがた

- ①二条小学校はまちづくりセンターと地区会館、児童会館が整備され、複合化や機能集積が進んでいます。
- ②白石区複合庁舎には、区役所機能のほか、保健センター、区保育・子育て支援センター（ちあふる）、区民センター、えほん図書館など、公的な機能集積のみならず、民間施設との複合化を行っています。

①二条小学校



②白石区複合庁舎



